

園長室だより

令和元年度 第2号（5月31日発行）大阪市立立葉幼稚園長 岡林 朗子

令和になって、一カ月経ちました。早いものですね。5月の様子をお知らせします。この写真は記録写真として取っていたり、先生たちの研修の為に撮っていたりするので、写っている子ども、そうでない子どもいろいろかと思えます。子どもたちの遊びの雰囲気を感じていただければと思います、載せていますので、ご容赦ください。

また、逆に、こんな姿が知りたい！というリクエストも受け付けいます。忌憚ないご意見お待ちしております。

トイレ前の写真と重なっている場合もありますが、合わせてご理解ください。



フープを取られるのが嫌なのでスタートしない3歳児

自分でフープを持ってきて参加している5歳児

入れず、泣いちゃう3歳児

「こっちにある！」と知らせる4歳児



3歳児も「もう一回！」の繰り返しの遊びが、とても大切です。楽しい遊びを思う存分遊び込む第一歩。担任の側で安心して「もう一回！」と何度も何度も繰り返します。フープに入った子どもがスタートできるという簡単なルールを知り、フープに入れず大泣きしている子どもに、ばら組さんが「こっちあいてる」と教えています。でも、自分の気に入った色がある3歳児。このこだわりも3歳児ならではの姿です。

3歳児に交じって5歳児も参加。自分でフープを持ってきて、参加しています。3歳児と4歳児、5歳児のありのままの姿に癒されます。



5月29日（水）歯磨き指導の様子です。吉川養護教諭が、子どもたちに、歯磨きの指導をしました。手作りの模型を作って、子どもたちに分かりやすい指導でした。

実はこれも、養護教諭としてのステップアップです。子どもたちに、どうしたら分かりやすいか、3歳から5歳児まで理解できる言葉、手順など計画書の立案から手作り教材の作成、また、打ち合わせなど。

打ち合わせで、甲先生が、「いい曲があるよ！」と♪はみがきの曲を持ってきてくれました。早速、この曲での指導でした。このような連携や教材の相談もしながら、子どもたちのため、教職員は、日々研鑽を積んでいます。



飼育ケースで育てている、アゲハ蝶の幼虫。キンカンの木にいる幼虫に気づき、様子を観察しています。友達同士自分の気づきを知らせ合い、じっくり観察する様子は、素敵な子どもの世界です。自分で気づく環境の重要性、しっかり遊べる時間の確保、このような子どもたちの姿を大切にしています。